



第 2 1 号  
平成 1 7 年 行  
8 月 発

## 笑いの力

### 笑い声は泣き声より遠くまでとどく

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 滉

最近の暗い世相を反映してか、困難に直面したとき悲観的にものごとを見たり、何か気に入らぬことがあると、すぐに興奮したり、ムカついてトラブルを起こしたりと、心にゆとりを無くす人が少なくないようです。

心にゆとりを持たせるために一番よいのが、笑いです。笑うと気持ちがいいですし、晴れ晴れとした心地よさを生みます。さらに、大いに笑うと元気になったようにさえ思えるはずで、それは、笑うことで固定した観念から開放され、笑っている間は余計なことを考えなくなるからです。笑いには、自分の心を空っぽにする作用があるのです。

須田医院主催で二ヶ月に一回いわき寄席を開き、患者さんや市民の方に笑いを提供しています。笑いにまさる良薬なし。こころと体を癒す笑いであると評価されています。面白いことに笑いすぎても、悲しくて涙があふれるものです。そのことから、笑うことと泣くことはよく似ている、といわれています。涙に關しての話をするなら、大笑いしているときに涙が流れてくるのはいつものことであり、悲しみでさんざん泣いた後に心の底から笑いが湧き上がることもめずらしくありません。顔の表情までもよく似ています。泣いているのか笑っているのか見分けのつかないこともあるくらいです。さんざん泣いた後は、疲れきって精魂尽き果てたように感じるものですが、その一方で、さっぱりした気分になってなんだか元気が出てきたように感じるものです。おそらく笑いに笑ったあとの気分もおなじでしょう。なぜそうなるのかは、泣くことと笑うことの共通性である強力な浄化作用のため、つまり、笑うことと泣くことには、どちらもストレスと緊張を解放する重要なメカニズムが存在するのでしょう。

悲しくて流す涙とうれし涙にも共通性があるということについて、ミネソタ州の生化学者 ウィリアム・フレイ によると、感情の高まりによって流れ出る涙は、ほかの理由で(たとえばタマネギを切って)流れる涙に比べてタンパク質がたくさんふくまれている。このことからフレイ博士は、悲しいときの涙がストレスから生じた有害物質を排出するのに重要な役目を持っていると考えています。笑って流す涙にもそれと同じ働きがある、と博士は推測しています。つまり笑いの涙もまた生体の有害物質を追い出す働きをする。だから笑いの涙であれば、悲しみの涙であれ、涙を流すことを抑制されるとストレス関連の病気にかかる可能性が高くなるということになる、と述べています。

悲しみの涙は人を内向させる。泣けば自分がかわいそうになる。反対に笑いは私たちの目を外に向かわせる。視野を広げ、現状を新しい目でながめさせるのです。

笑いは、心の潤滑油の働きをしてくれます。晴れ晴れとした心が相手に波及し、人間関係を円滑にしてくれます。望洋荘に住む方々には、職員のみなさんから涙の溢れる程の笑いとおもてあげてください。

引用文献 「笑いの治癒力」アレン・クライン著 創元社刊

### 「日本自転車振興会」様より補助頂きました。

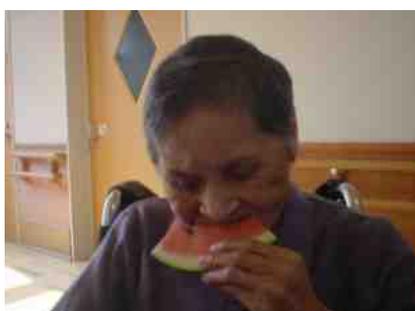


「日本自転車振興会」様より、車両購入にあたり多額の補助を頂きました。車両台数が増え、今までよりも数多くの入居者様の送迎・旅行・行楽などに利用したいと思います。大切に使用させて頂きます。誠にありがとうございました。

## 第一回『サマーフェスタ』開催致しました。

八月二十八日(日)午後一時三十分より太平洋に面した地下ピロティにて第一回『サマーフェスタ』を実施致しました。前日より天候が不順であり、野外での開催が危ぶまれておりましたが、みんなの願いが天に届いたのか、時より小雨が降る程度で、気温も程よく絶好の日和でした。

夏の強い日差しがつづき、野外に長時間出る機会もありませんでした。そこで、なんとか入居者様に外の空気にふれさせたい・外でみんなを楽しませたいと思い、今回のサマーフェスタを企画致しました。



## 第二回『スイカ割り』

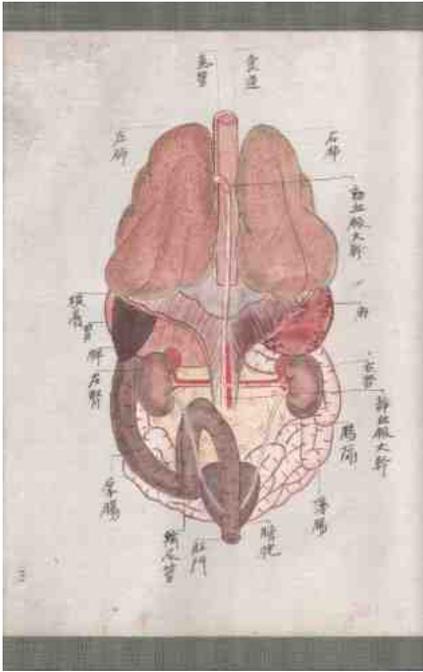
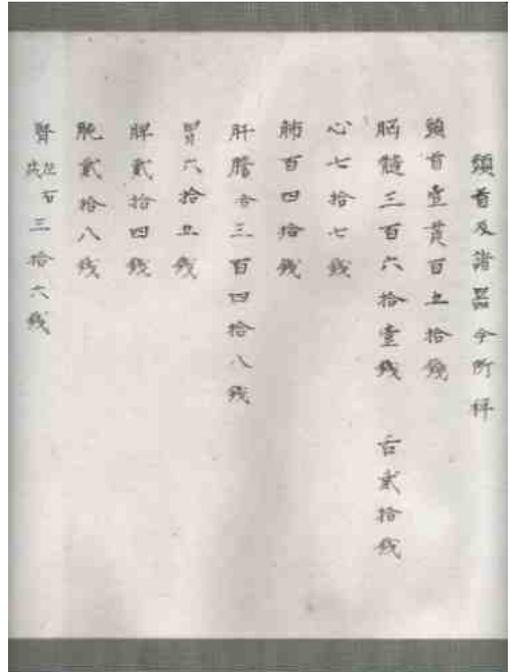
八月三十一日(日)午後より、今年も恒例の『スイカ割り』を開催致しました。お盆が過ぎましたが、まだまだ残暑づく中で、大きなスイカを入居者様が順番で叩き、スイカを割るのにも一苦労でありましたが、その後は、みんなで冷えたスイカをおいしく頂きました。

余興の『じゃんがら』『マツケンサンバ』『フラダンス』『ギター演奏』は職員の日頃の練習を披露し頑張りました。たのしい雰囲気に入居者様も飛び入り参加で踊られておりました。御家族様の御参加も頂きありがとうございました。



ちよんまげ医者と解体新書異聞 (その二)

須田 滉



右の図は、「望洋荘便り」七月号・八月号でご紹介した解体新書絵図の一部です。向かって右側図は、各臓器の質量を測り記録した文書です。左側図は、臓器の配置・形・色等を克明に記録した絵図の一部です。

頭首及諸器今所秤  
頭首壹貫百五拾錢  
脳髓三百六拾一錢 舌式拾錢  
心七拾七錢  
肺百四拾錢  
肝胆合三百四拾八錢  
胃六十五錢  
脾二十四錢  
脾二十八錢  
腎左右共參拾六錢

臓器別重量測定 (一貫・三七五〇グラム・一錢・二七五グラム)  
頭首 約四三二二グラム  
脳髓 約一四三三三グラム  
舌 約 七五グラム  
心 約 二八九グラム  
肺 約 五二五グラム  
肝胆 約一三〇五グラム  
胃 約一四四四グラム  
脾 約 九〇グラム  
脾 約 一〇五グラム  
腎(左右) 約 一三五五グラム

い齋杉田先生曰解剖者医家之先務治術之要法不可以不審也言哉此言也欲極疾病之原始者外興無可以知牟靈枢曰其死可解剖而視之由此觀之古必有其法至至後世失其傳徒踏襲五行分配之鑿說而已謂然屍體了不容得剝離哉故余輩取和蘭學家所記之解剖諸書讀之數回頗寫其要謂然未微諸實物常以為憾今滋適有愉兒処死刑者結解氏欲解剖之謀余家大人大人日時哉不可失即與同志之士俱離剝刑余之屍自三腔四肢諸臟五官以至血液筋骨皮膜悉皆閱視而比較諸解剖諸書耗無差感嗚呼可謂西說之精妙至卒尽此日所視如聽骨及速脈那唾管等最纖細微妙先哲稱容易唯見鳥況余浅学呼然而一覽領解之者不亦前日研究西說之故弥因益信西說系巫世欺人速命画工模所見之真形以備他日之遺忘實天保八年丁酉春二月二十有一日也

椿園 長谷川 温 識

い齋杉田先生は解剖学を学ぶ事は医師の基本であり、医術は不審を以つて為すべきではないと、素晴らし事を述べておられます。疾病の原因を極めよつとするなら、外に興る現象からは知る事が出来ない。中国の古来の医学である「靈枢」の中で死体を解剖して病因を追求すれば、治療の方法に繋がる」と書かれています。しかし、後世に至り、世間においてはその言い伝えも忘れ、無益にも、仏教の「五行」の教えが踏襲されている。この風説を止めさせ、医学「靈枢」にある解剖を施行せんと思えども、現状では死体を容易に解剖できない状態である。  
故に小生、阿蘭陀学派の翻訳した解剖学諸書を多く読むことで、かなりの要諦を理解している積もりではある。しかしながら、未だそれら人体の諸臓器の実物を見た事がなく、永く残念に思っていた。  
ところが、ここに今まさに処刑された罪人の死体があり、腑分けする事の許可が得られた。この屍体の解剖をすべく、私や他の医師達と素早く対応を図り、同志の方々と一緒に処刑された遺体の腑分けをした。三腔、四肢、諸臓器、五官より血液、脈管、筋骨、皮膜に至るまで、全て見る物諸々の解剖学書と比較するに、少しも違つてゐるが、  
なんと、西洋の学問の精密且つ詳細であることが、  
ことごとく、この日の見たものは、かつて聴いていたとおりのものだ。骨格、神経、なんと唾管等に至るまで最も繊細で微妙なまでの、医師達が唯見て簡単に口にだして名称を述べている。これ偏に西洋の諸解剖書のお陰である。  
況や、私のような浅学な者が、一覽してこれらのものを理解出来たのは、以前から西洋の学説を研究していた事にほかならぬ。よって、益々、世をあざむかず、人に役にたつ西洋の学説を信ずるに意を強くした。  
すみやかに、画工に依頼して、見たところの眞の形を模写させ、備忘のためにこれを遺す。  
天保八年(八三七年)丁酉 春二月二十二日 椿園 長谷川 温 記  
久之浜通信「十三号」二〇〇一年七月 寄稿文より

『お笑い演芸』を開催



八月九日(火)午後一時より、望洋荘内(塩屋岬広場)にて、落語家の「桂竹丸師匠」、「春風亭 昇輔師匠」と大神楽「鏡味 正二郎師匠」の三名が来荘され、寄席・大神楽・踊りを披露していただきました。大神楽は、昔ながらの伝統芸であり、入居者様は大喜びで大変良かったと思います。

「いつもより多く回っています」というより、「いつもより多く笑っています」という感じでした。

『望洋荘三周年記念寄席』の案内

お陰さまで、望洋荘開設三年目を迎える事になりました。これを記念して、この度「望洋荘三周年記念寄席」を開催いたします。

「ご多忙とは存じますが多数の御出席をお願い致します。」

平成十七年十月十二日(水)

午後六時三十分 開演

いわきワシントンホテル「槽山荘」

立川 ぜん馬 師匠

三遊亭 鳳楽 師匠

二人会



三遊亭 鳳楽 師匠 プロフィール  
 昭和22年 埼玉県川越市生まれ  
 昭和40年 三遊亭円楽師匠に入門  
 大師匠三遊亭円生より「楽松」と命名  
 昭和47年 二つ目昇進  
 昭和52年 NHK新人落語コンクール最優秀賞  
 昭和53年 日刊飛切り落語会若手落語家奨励賞受賞  
 昭和54年 真打昇進初代三遊亭鳳楽を襲名  
 平成 5年 文化庁芸術祭受賞  
 「鳳楽・上ちゃんの歌謡曲電リクでナイト」出演  
 (SBS ラジオ毎月曜日 19:30~21:00)

立川 ぜん馬 師匠 プロフィール  
 昭和23年 東京都世田谷区生まれ  
 昭和46年 明治大学文学部在学中立川談志入門孔子で前座修行  
 昭和51年 朝寝坊のらくで二つ目昇進  
 昭和56年 NHK新人落語コンクール最優秀賞  
 昭和57年 真打昇進六代目立川ぜん馬を襲名  
 趣味 読書 映画演劇鑑賞 全国競輪場巡り  
 特技 獅子舞 競輪予想

介護老人福祉施設 『望洋荘』  
職員紹介 & コメント集



介護士 橋本 圭

望洋荘に入社して四カ月が経ちました。初めは入居者様と何を話して良いのか分からなくて、とても不安でした。しかし先輩方より優しくアドバイスを頂き、今では、入居者様と楽しくコミュニケーションが取れるようになりました。これからも毎日が勉強する事ばかりです。今まで以上にしっかりと学習して、入居者様に安心して楽しく生活を送って頂けるように努力したいと思っています。常に優しさや笑顔を忘れずに、仕事を頑張っていきたいと思います。

今月の言葉その (倫理研究所編纂語集から)

学びの秘訣は  
そのまま受ける

コップに古い水が残っていても新しい水は入らない。学ぶことは心のコップを一旦空にすることだ。いっぱい知識や経験など捨ててみたまえ。新たな視野が開けよう。

編集後記  
『望洋荘』便り  
平成十七年八月一日発行  
発行所 いわき市 平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会  
介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 557373  
FAX (0246) 557255